



# まつざき真琴

## 県議会ニュース

日本共産党

2014年  
1月19日号  
原発特集

発行/日本共産党鹿児島県議団  
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 TEL/FAX 286-3977  
E-mail [kengidan@jcp-kagoshima.com](mailto:kengidan@jcp-kagoshima.com) HP <http://jcp-kagoshima.com>  
★ブログ『まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記』<http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

ご意見・ご要望を  
お寄せください

川内原発再稼働

## 知事「6月議会で判断」

住民説明会に

## 鹿児島市民は参加できない?!

伊藤知事は、年頭の記者会見において、川内原発の再稼働問題について、「3月ぐらいまでには審査を終わってほしい」、「6月議会で判断したい。」と発言し、「世界中どこにいてもないような(レベルの)審査がなされている。(住民の理解について)それほど心配していない。」と、再稼働容認の姿勢を際立たせました。また、住民説明会について、対象を「地域住民」に限ることや、事前にハガキで申し込んだ参加希望者の中から県が通知を出すこと、鹿児島市内では説明会は実施しないこと、ネット中継を行わないことなどを明らかにしました。

## 放射能被害は30km圏内で収まらない! 誰でも参加できる説明会を!

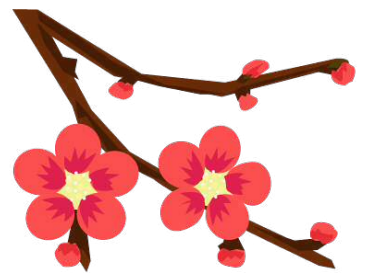
知事は、住民説明会の対象を「地域住民」として、立地自治体の薩摩川内市や隣接するいちき串木野市、そして原発から30キロ圏内の住民に限るとしていますが、原発は、過酷事故が起きれば、その放射能の被害はどこまでも広がります。これまで県は、「県民誰でも参加できる形で説明会を開催すべきと考えている」(2013.10.1原子力安全対策等特別委員会において、まつざき県議の質問への答弁)としてきました。事前チェックで参加者を限定するのではなく、希望する人が誰でも参加できる説明会を行うべきです。

## 避難計画も不十分、要援護者対策は未整備 ～再稼働は「安全神話」と「人命軽視」～

30km圏内の自治体では、避難計画を策定しなければなりません。ようやく、昨年末に9市町が出揃いました。しかし、30km圏内には21万7千人の住民が暮らしており、避難バスの確保ができるのか、自家用車による渋滞は起きないのか、現実には多くの困難が予想されます。また、病院、福祉施設、学校、保育所などでは、「要援護者」の避難計画を策定しなければなりません。これらは全くできておらず、これからです。30km圏内には230か所もの福祉施設があり、これらの人々を受け入れる医療機関や介護施設の確保、安全に移動させるための手段など、計画の策定は困難を極めると考えられます。

伊藤知事は、「避難計画の作成は再稼働の要件にならない」との見解を示しています。避難計画が未整備の状態でも再稼働を認めることは、避難するような事故は発生しないと考えている新たな「安全神話」に陥っているか、あるいは事故が発生して避難ができなくても仕方がないと考えている「人命軽視」のどちらかと言えます。

そもそも、どこまでも広がる「死の灰」からの避難は困難を極めます。このような避難を強いる原発は、人類と共存できないことは明らかです。原発に群がる企業や団体の利益よりも、住民の命を守る立場に立って、知事は、再稼働を認めるべきではありません。



### 3. 16鹿児島大集会へ

ストップ再稼働! 1万人集会

鹿児島市中央公園(テンパーク)

2014年3月16日(日) 午前10時～午後4時

★当日のスケジュール(予定)

10:00～13:00 ノーニュースコンサート&トーク

13:00～14:00 メイン集会

14:00～16:00 パレード

主催: ストップ再稼働! 3. 11鹿児島集会実行委員会

再稼働ストップ!  
の意思を示そう



1月11日天文館、川内原発再稼働反対署名活動に参加するまつざき県議

### 原発なくそう!九州川内訴訟 原告にないませんか?

現在原告数は2,095名です。第5次の提訴が行われます。

●とき: 3月11日(火) 13:30

●ところ: 鹿児島地方裁判所

【お問い合わせ】

弁護士法人白鳥法律事務所

TEL (099) 227-2655

FAX (099) 223-0254